

夢甲斐塾20周年の誓い（案） ～誇れる日本を次の世代に～

私たちの日本は、青く澄んだ海や豊かな自然に包まれた美しい国です。春・夏・秋・冬、四季が織りなす変化の恵みは、私たち日本人に感謝の気持ちや耐え忍ぶ強さなど豊かな心をもたらしてくれます。太古の昔から、大いなる自然が生み出す様々な恩恵に深くあずかってきた私たちの祖先は、自然の力こそが生命を育み、豊饒や繁栄をもたらすものと信じてきました。その結果一木一草から神を見だし、自然に対し畏敬の念を抱き、自然と共生する人類の営みを理想としてきたのです。そしてこの日本を取り巻く環境が日本独特の勇敢にして高潔なる大和魂や武士道精神、思いやりの心、利他の心溢れる道德心、許容性豊かな心といった価値観を育んできたのです。

しかしながら日本は、敗戦後戦勝国による政策により、経済の復興と発展に過度な比重をかけた国づくりに邁進してきた結果、世界でトップクラスの物質的繁栄を築き上げたものの、古来より脈々と伝えられてきた価値観が置き去りにされ、利己主義、刹那主義、拝金主義が横行し、人としての心の豊かさは徐々に失われ、殺伐として将来に夢のもてない国、自立心の欠如した国になっているのではないのでしょうか。

「誇りを失った国は滅びる」ということばがあります。私たち夢甲斐塾生は、今こそ、抜け落ちてしまった大切なものに目を向け、「**将来に夢のもてる国**」「**誇れる国**」「**誇れる地域**」をつくらなければならないと思います。

誇りを取り戻すためには、まずは教育からスタートです。日本は敗戦によって教育にも精神的支柱を失い、子どもをどんな大人に育むべきかという教育理念よりも、そのプロセスや方法論ばかりが議論されるようになりました。本来、教育で最も大切なことは、正確な知識を学ばせることはもとより、日本人が培ってきた道徳的価値観を教えることと、自律した個人としての健全な自主性を育むことです。“国（公共）のことを思い、社会に貢献できる人になって、皆から尊敬されること”が何よりも価値のあることであり、そのためには“しっかりと勉強しなければならない”という学ぶ意義を、子どもたちに教えていかなければなりません。

そして、子どもたちに正しい知識を学ばせ、日本の道徳を教えていくためには、まず私たち自身が日本の歴史観や伝統的な精神性を正しく学びなおさねばなりません。なぜならば、それがあってこそはじめて、日本人としての誇りと自信が育まれると思うからです。

夢甲斐塾20周年宣言（案）

夢甲斐塾は20周年を契機に、塾生が取り組むそれぞれの活動を尊重しながら、『誇れる日本を次の世代に』というコンセプトを持って今後の学び・活動を進化させます。

一度しかない人生だから、志を高く持とう
愛する我がまちだから、夢をかたちに変えていこう
ふたつとない国だから、日本の未来をこの手をつくろう
かけがえのない地球だから、全てのものと共に生きよう
時代をきり拓くのは我々夢甲斐塾の使命である。